

女子校から男女共学へ、 教育形態の変化に対応。

伝統ある

県立佐野女子高校の再編

2011年度から佐野東高等学校として男女共学化により学校校名を変えた佐野女子高等学校は、2010年度まで女子校として103年の歴史があり、多くの卒業生を輩出してきた。

男女共学化にともない、既存校舎に男子トイレの新設、現存の女子トイレのすべてが今回一新された。計画中は和式便器と洋式便器をどのような比率にするか、清掃方式はどうするかなど、学校関係者の中でもさまざまな議論が持ち上がったという。当高校の環境美化担当でトイレ清掃の指導担当でもある小泉旬子先生も、当研究会の冊子を取り寄せていただき、学校関係者のみんなで熱心にご研究いただいた。

最近の小中学校も洋式化が進んでいること、今はほとんどの

家庭が洋式なことを踏まえ、改修前は1ブースを除き、すべて和式便器だったトイレだが、洋式便器を中心に設置するよう要望した。

「和式便器がなくなるの？」と当初難色を示した生徒もいたようだが、現在苦情はまったく上がっていないという。小泉先生は「便座クリーナーを各ブースに用意しています。また、『学校のトイレは冷たい』という印象があるが、便座が温かいので、これは生徒にとって非常にメリットが大きいのでは」と話す。

これからは、男女共学の新たな歴史とともにトイレの「きれい」を維持していくことだ。清掃方式がどうであれ、清掃後の水分を残さずいかにドライに保つかが衛生的に影響する。清掃方式は今回乾式に変わったが、小泉先生は、清掃する生徒に丁寧に指導すれば責任を持つて応えてくれるという。2010

0年ヒット曲「トイレの神様」を15分の清掃時に流すアイデアを提案しているそうだ。

トイレ改修後の 心境の変化

小泉先生：「トイレ工事を通して、トイレに対して考える時間が増えましたね。」

これまで『今あるトイレをどうきれいに維持していくか』ということを中心に考えていましたが、『トイレをこう変えてほしい』『他校（小中も含めて）のトイレはどうか』という方向に意識が向かうようになりました。事務長稲見先生：「パブリックのトイレは本場にきれいなかった。ふと気付くと世の中はすべて乾式化されている。学校のトイレを当たり前と、とらえていたが、意識が変わりました」。公立高等学校のトイレも、時代に合わせて変化の時期に来ているのではないだろうか。



職員用男子トイレ（未改修）



2



3



1

1. 使用後は自動で洗浄する自動洗浄小便器を設置。壁掛けタイプなので便器下の清掃もラクラク。
2. 洗面器は壁掛けタイプのシンプルな仕様。手洗いは、もちろん自動水栓、非接触に配慮。
3. 大便器ブースの1つには、壁に手すりが設置された。暖房便座が採用されているので、座った時にヒンヤリとせず、使用感も好評。清掃方式を乾式にしたら、1つ残した和式便器のブースの清掃がしにくいと小泉先生。

【佐野東高等学校】

※2011年度4月から男女共学化。1年生は佐野東高校生、2・3年生は佐野女子高校生と、2体制をとる。

- 竣工年月/2010年3月
- 所在地/栃木県佐野市金屋下町12
- 生徒数/男子89名、女子546名
- 構造規模/RC造3階